



9月に入り、朝夕の涼しさと飛び交う赤とんぼに移り行く季節を感じています。

また、この夏は日本各地に猛暑とかつてないほどの集中豪雨に見舞われ、災害に合われた方も多いと思います。毎日のニュースを聞きながら安否を気遣う毎日です。お見舞い申し上げます。

前回のブランチ通信を出した半年前は、丁度ロシアがウクライナに侵攻する2日前でした。日本は戦争のない平和な国だと思い込んでいた日常生活に、ウクライナの人たちが今住んでいる家を追われ、命を懸けて国外に逃れる様子や爆撃の悲惨な映像が毎日テレビ等で流れるようになりました。

日本は今まで「戦争をしない国」として憲法で守られてきました。それは、それまでの戦争を深く反省し繰り返さないと決めていた歯止めがあったように思います。しかし、ある新聞の記事ですが、この半年で、日本だけではなく、世界中で戦争に関する考え方が大きく変わったと書かれていました。それは「戦争はしてはいけない」と反戦運動が起きるのではなく、「自分の所に攻めて来られたら戦わなくてはいけない。」と抗戦が正当化されて来ていることです。確かに攻めてこられたら防衛するでしょう。けれどどんなに悲惨なことになっても、勝てばそれが正義となる。そんな世界になっていくことは戦争より恐ろしい気がしました。

ロシア人がウクライナに派遣され、また国を守るために戦うために残っているウクライナの人たちのことに、もっと想像力を働かせてみれば、「国の安全のため」の使命を負うことだけで戦争は解決してはいけないように思います。

国は国民を戦争に動員する面もあります。「殺してはいけない」「むさぼってはいけない」敵か味方の区別をするだけでなく、戦争そのもの不条理を、今生きているいろいろな人の感覚に基いた言葉で語られることが大切なことだと思っております。

#### —ブランチの報告—

ブランチはこの8月で5年目を迎えました。この半年もコロナ禍の中、なかなか人が集まらない状況がありましたが、小さな集まりをいくつかすることが出来ました。

・4月2日にはイースターの集まりをしました。教会の日曜学校の先生にお話を聞き、初めてエッグハンティング(たまご探しゲーム)をしました。ブランチ横の草原は素敵な隠し場所となりました。



・ブランチを学びの場として使ってほしいという思いはありまし

たが、5月に、牧師を招いて聖書のお話をしました。大学生含めてなど6名で聖書に関する疑問を話し合いました。質問に対して真摯に答えてもらえたり、素直な質問が出来、理解が深まったように思います。また、若い腹が空いた方には、ビビンバの食事つきでした。

・ある方の提案で学習会の場として使ってもらったことがあり、7/17に2つの学習会をしました。講師は、ブランチを応援してくださっている眞野麗子さんです。寄稿して頂きました。

1) 国菌である麹菌を使って「発酵美人料理」

調理自習。

「日本ならではの宝物 湿度が高く黴も生える日本で、梅雨や夏を過ごすのは大変です。毎年うんざりします。しかし、実は「世界最高の環境」です。「おめでとう」と言われても、にわかには信じられません。学習会では「国菌」である「麹菌」について学び、「塩麹作り」「甘酒作り」をしました。「国菌」ですから日本にしかありません。「麹菌」のおかげで、酒・味噌・醤油・みりん・酢という日本食の基本は、すべて「麹」からできています。

「麹菌」は生きています。～

2) 映画『ラーゲリより愛をこめて』の紹介

映画12/9 全国東宝系 封切り

出演:二宮和也 北川景子

原作:收容所(ラーゲリ)から来た遺書

逸見じゅん著 文春文庫

この映画は、シベリアの強制收容所(ラーゲリ)から、遂に帰国(ダモイ)できなかつた男から託された遺書の物語です。主人公山本幡男氏の遺書は、極秘に「暗記」する形で行われました。

島根県出身の山本幡男氏は、東京外国語大学ロシア語科卒業後、南満州鉄道調査部で働くロシア専門家。

眞野さんのご家族は戦後満州から引き揚げてきたそうです、末っ子の眞野さんは引き揚げ後日本で生まれ戦争を体験していないと言われます。けれどその引き揚げ中のことは親や兄弟から何回も聞いてきたことでしょう。

この本は、たまたま、義父の本棚で見つけ原作本をもらい読み始めたそうです。そして、戦争(太平洋戦争)の体験をしていない眞野さんをどんどん変えていったと言われます。戦争(第二次世界大戦)の事をきちんと知りたい。という思いは強くなりヨーロッパ旅行もよくいわれています。

こんな話を聞いてから、私は初めて母方の祖父がシベリア抑留をされ戦後2年たってやっと帰国したことを、80歳後半になる母の口から知らされるのです。こんな身近での出来事であったのに、もしかして私は何も知らずに一生を終わることになったのかもかもしれません。

「人と人の関りは、その人の歴史を理解すること、時を超えて伝えていく大切さを改めて教えてもらった気がします。」と話を締め括られていました。



—いろいろな方とのか  
かわりの中で—

・同じ屋根の下に4年  
間。小学2年生だった  
男の子は6年生にな

(9月10日中秋の名月)

りました。思春期に入り難しい年頃だと思いますが、共に成長を見守れることは嬉しいことです。

・管理者である私は、7月に送られてきた介護保険証にびっくりし、年齢を自覚しないと、思っていたのに、豪雨後の溝掃除をやりすぎてしまい、腱鞘炎、肩関節周囲炎…。年を取らないと分からないことが沢山ありそうです。

・時々宿泊する方、定期的に寄ってくださる方もいらっしゃいます。その方の人生を思いながら、自分の生き方を振り返る良き時となっています。

・ランチはいつでも利用して頂けます。利用希望の方がいらっしゃいましたらまたお知らせください。ショートステイも可です。

・5年目のランチもよろしくお願いします。

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である

ランチ (Branch) 山科 松本